

川崎市総合計画市民検討会議 第1部会【社会福祉】

議事録

日 時 平成26年11月1日(土) 13:30~17:00

会 場 川崎市役所 第4庁舎 第6・7会議室

出席者

委 員 磯崎コーディネーター、外山委員、青柳委員、新富委員、川島委員、飯田委員、
片山委員、長谷川委員、加藤浩照委員、辻委員、小池委員、山下博子委員
市 側 唐仁原都市経営部長、久万企画調整課長、宮崎企画調整課担当課長、
田中企画調整課課長補佐、箱島企画調整課担当係長、大澤企画調整課職員

議 題 1 開会

2 審議

テーマ:「超高齢社会においても生き生きと暮らし続けることができる地域の支え合い」について

- (1) 目的と進め方について
- (2) 有識者会議等について
- (3) グループディスカッション
- (4) 全体討議

3 閉会

公開及び非公開の別 公開

議事

開会

(司会 唐仁原都市経営部長)

それでは、定刻には少し早いですが委員、コーディネーターの皆様お揃いですので、川崎市総合計画市民検討会議第1部会の第1回会合を開催させていただきます。進行を務めます、都市経営部長の唐仁原でございます。よろしくお願いいたします。

まず資料の確認をさせていただきたいと思います。

- 本日の進行表
- 会議次第
- 部会編成表
- 席次表

- 資料1 新たな総合計画及び行財政改革に関する計画の策定に向けたスケジュール(案)
- 資料2 第1回全体会 意見シートのまとめ
- 資料3-1 第1回川崎市有識者会議資料
- 資料3-2 川崎市有識者会議第1回ラウンドテーブル資料
- 資料4 グループディスカッション・全体討議の進め方
- 資料5-1 超高齢社会においても生き生きと暮らし続けることができる地域づくり
- 資料5-2 社会福祉分野における現状と課題 (付属資料)
- 参考資料1 第1回全体会 開催概要
- 参考資料2 第1回全体会 議事録

その他としまして、

- チラシ 「かわさきの未来を考える市民フォーラム」
- 意見シート

このほかの資料としました、厚い冊子ですが、

- 川崎再生フロンティアプラン第3期実行計画

これが現計画の実行計画でございます。

その下に、

- 高齢者福祉のしおり
- 市政だより (かわさき麻生区版の特別号)
- シニアライフを地域で豊かに 大人の充実生活 (保存版)

参考資料の1と2は、10月4日に行いました第1回全体会の開催概要と議事録でございます。皆様方には議事録のご確認をいただきまして、ありがとうございました。その確認をもって市ホームページに公開させていただいております。

また、資料中のカラーのチラシでございますが、11月8日土曜日に、武蔵溝ノ口にございますノクティ2の中にある高津市民館で行うフォーラムの案内でございます。ぜひご参加いただければと思います。フォーラムの基調講演とパネルディスカッションを、地域包括ケアシステムの第一人者であり、有識者会議の第1回ラウンドテーブルでもご講義いただいた田中滋先生にお願いしております。展示コーナーでは市制90年のあゆみといたしまして、この間大きく発展を遂げてまいりました川崎市の変遷を映像や写真などでご紹介しております。お子さんも楽しめるコーナーも用意しておりますので、ぜひお越しいただければと思います。

資料が多く恐縮ですが、冊子「川崎再生フロンティアプラン第3期実行計画」につきましては後ほどご説明させていただきますが、厚みのある冊子ですので、そのまま置いて帰っていただいても結構ですし、ご希望の方はお持ちいただいても結構です。

続きまして、本日の会議開催に当たりまして、いくつかご説明を申し上げます。

この会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき、公開とさせていただいております。会議の傍聴、取材を許可しておりますことをご了承いただきたいと思います。

また、本日の発言につきましては、議事録の確認をお願いしたいと思いますのでよろしく願います。第1回同様、確認の後、市ホームページにて公開してまいります。

前置きが長くなりましたが、ここから議事に移りたいと思いますので、進行をコーディネータ

一の磯崎先生にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(磯崎コーディネーター)

10月4日に皆さんと顔合わせをしてから1か月近く経ちました。今回はいよいよ内容を絞ってディスカッションを中心に進行するというごさいますので、お足もとの悪い中、また貴重な休日をこの時間に割いていただきまして感謝申し上げます。充実した半日になるよう一緒に頑張っていきたいと思ひます。10月4日の全体会では、行政から総合計画に関する総合的な説明をいただきました。それからのグループディスカッションで、皆さんの問題意識を共有化いたしましたので、短い時間でございまして、今回は2時間程グループディスカッションにとっておりますので、思い切り議論を進めたいと思ひています。皆さんには自由にご議論いただきたいのですが、社会福祉担当の職員の方にもテーブルに同席いただきまして、従って冒頭の説明はなるべく簡潔にしまして、グループディスカッションの流れの中で現状の制度等の説明、アドバイスをお願いする形で進めたいと思ひます。議事の1番ですが、目的と進め方について簡単にご説明をお願いいたします。

資料説明

(久万企画調整課長)

企画調整課長の久万と申します。どうぞよろしくお願いいたします。前回の全体会では、今回の総合計画のアウトプットのイメージが分かりにくいという意見をいただきましたので、改めてお時間をいただき、その辺のご説明をさせていただきたいと思ひます。資料1のスケジュール表と厚い川崎再生フロンティアプラン第3期実行計画をご覧ください。今回の会議の役割についてご説明が不足しておりましたので、まず資料1でご説明したいと思ひます。

現在、新たな総合計画と行財政改革に関する計画を2本立てで作っているのですが、計画の前提条件をまとめた左上の策定方針から本格的な検討をいたしまして、この市民検討会議と有識者会議などから御意見を頂きながら検討を進めてまいります。

大きな目標としては、平成27年7月の「基本構想」と「基本計画」の素案の策定を目指してさまざまな御意見を頂きたいと考えておりまして、その後は、平成28年度の予算の検討と併せて、具体的な事業を記載した「実施計画」の策定作業に移りまして、内部事業を含め1600くらいあるのですが、平成28年3月に実施計画を策定する予定となっております。

「基本構想」ですとか「基本計画」、「実施計画」と言ひましても、どのようなものか、イメージを持っていただくために、机の上に、前の計画である「川崎再生フロンティアプラン」をご用意してあります。

3ページをご覧くださいと、下段に計画の構成図があります。この計画は、10年ものの「基本構想」と3年間の具体的な事業を記載した「実行計画」に分かれています。3階層ではなく2階層の計画でございました。

新たな総合計画の「基本構想」と「基本計画」を合わせたものが、この冊子の「基本構想」に当たるくらいのイメージでございまして、具体的な事業を盛り込んでいく新たな「実施計画」はこの冊子の「実行計画」と大体同じレベルのものとお考えいただきたいと思ひます。

続きまして719ページをお開きください。こちらが10年前に議決された基本構想です。

30年を展望する新たな「基本構想」は、このページにある「前文」から、次のページにある「Ⅲ まちづくりの基本目標」が720ページの左側中段の少し下くらいぐらいにございます。ここら辺までを今回の基本構想の内容を盛り込むイメージでございます。

一方で、10年程度の新たな「基本計画」は、「Ⅳ 基本政策」にある「視点」ですとか、721ページの右側中段から始まる「基本目標を達成する7つの基本政策」に示す「(1) 安全で快適に暮らすまちづくり」から、726ページの「(7) 参加と協働による市民自治のまちづくり」までの、このぐらいの細かさの内容を盛り込んでいきたいと考えております。

いずれも、内容の検討はこれからでございますが、記載する細かさのイメージをつかんでいただきたいと思ひまして、ご紹介させていただきました。

来年の7月までに、この市民検討会議や有識者会議等で頂いたご意見につきましては、分野ごとに整理いたし、このようなイメージのものに反映させていきたいということでございます。

今、この文章を読んでいただくとさまざまな印象をお持ちかと思ひます。

「ぼんやりしている」とか「具体的な事業内容が分かりにくい」など、いろいろとお感じの部分があるかと思ひますが、720ページの「Ⅰ 基本構想の役割」にありますように、この川崎という地域をこれからどのように運営していくかの基本目標を定めて、計画的に市政を運営していくために、議会の議決を頂いて策定する大変重要なものでございます。

実際の事業内容につきましては、「基本構想」「基本計画」に基づいて「実施計画」で検討していくこととなりますが、今日のテーマ「介護」とか「健康」ということとなりますと、例えば、199ページをお開きください。

介護が必要になったら、「特別養護老人ホーム」が必要、ということとなりますと、ここに記載されていますように、計画的にかなりの数を整備してきておりまして、それでも入所待ちしている人がたくさんいらっしゃる状況にございます。

入所待ちを解消することだけが市の課題ならば話は簡単なのですが、現実には保育所も整備しなくてはいけない、学校もトイレくらいはきれいにあげたい、いざという時の備蓄物資も必要、という具合に費用のかかることは市に入ってくるお金以上にたくさんある状況でございます。

これから、「特別養護老人ホームがもっとあれば良い」の他にも「公園」「保育所」などについて、さまざまなものがもっとあったら良いのという意見がたくさん出てくると思ひます。

そのような御意見は大変貴重なものでございますが、建設的な議論をしていくうえで、その全てを実行することは財政的に困難であることをご理解いただければと考えています。

例えば、いろんな施設をたくさん作るのは無理なので駅前に集中させたらいいんじゃないか。これは基本構想・計画に盛り込め、実行可能かも知れません。

また、防災の観点から、全ての市民が3日間生活できる水や食料を備蓄することすら行政では出来ないのなら、市民が備蓄すべき物をせめて広報するくらいはどうか。これも実行可能だと思います。そして、市民の皆様が自らできることは何かまで考えていただけると、大変ありがたいと考えます。

これからテーマごとに話し合っていたる際は、こういった視点で話し合っていたらいいと思ひまして、それを、さきほどの「基本構想」「基本計画」につなげていきたいと思ひます。

また、資料1にあるとおり、この検討会議をはじめ、先日開催した市民検討会や、アンケート調査、議会での論戦など、さまざまな形で頂いたご意見につきましては、体系的に取りまとめさせていただき、財政面も含めて、今並行して、事業の見直しなどを行う「行財政改革に関する計画」と役割分担して、全体の調和を図りながら「実施計画」に反映できるよう検討していきますので、その旨ご理解いただければと思います。

少し長くなりましたが、よろしく願いいたします。

(磯崎コーディネーター)

続きまして議事の2番、有識者会議等について総合企画局よりご報告をお願いいたします。

(久万企画調整課長)

引き続きまして、先般開催されました第1回有識者会議、第1回ラウンドテーブルにつきまして簡単にご説明させていただきます。

資料3-1をご覧ください。有識者会議につきまして10月27日に開催いたしました。今回のメンバーは6名の委員、秋山先生、出石先生、垣内先生、中井先生、平尾先生、涌井先生ということで、各分野の専門家の方々にいろいろご議論いただきました。

全国的な社会動向の資料6-1と川崎市に関する具体的な状況の資料6-2を基にご議論いただくということです。

まだ正式な議事録等ができあがっていないので、どのような意見が出たか簡単に説明させていただきます。涌井先生が座長になりましたが、課題解決の先進都市川崎を目指しましょう、というご意見を頂きました。また、都市間競争に関しては、都市間競争に勝つというよりも住民のゆとりと豊かさを中心に計画をつくるべき、あるいは自分の都市だけ良ければいいということではなく、海外とは競い合わなければいけないという意見もありました。さらに、川崎は産業分野が優れており、イノベーションで人口流出を緩和できる、高齢者の増加は文化にとってはよいことである、高齢者は文化に接する時間がある、などのお話がありました。

川崎市は人口の流動性が高い都市ということで、それをマイナスに捉えるのではなく、学生など一度川崎に住んでいた人が外に出て、川崎は良かったと川崎の応援団になってもらえるようなまちづくりが必要だというお話もありました。あるいは市民検討会の資料を見ていただきまして、川崎市には積極的にいろいろなことに参加される方が多いというコメントもいただいています。全体として、川崎らしさを生かしたまちづくりをどのように進めていくのかがポイントとなりました。市民の幸福は、それぞれが社会的な役割を果たすことによって生まれるものなので、失われつつある多世代の交流と共に、元気なシニアにどのように役割を持たせることができるかが全体を通して重要な視点ではないかというお話がありました。

続きまして資料3-2のラウンドテーブルでは、ゲストを招いた勉強会を開きました。ゲストは慶應義塾大学の田中滋先生で、地域包括ケアシステムについてご講演頂きました。具体的な地域包括ケアシステムについては、市民検討会議でも議論がありました通り、重度の介護あるいは軽度の介護が必要な人、虚弱な高齢者、元気な高齢者に分けて考え、それぞれの役割を果たすことが重要だと指摘がありました。例えば杖をついても回れるような範囲において、地域生活できる仕組みが必要であるという指摘がありました。また、これからの少子高齢・人口減少への対応について、市長を始めとして、医師会、事業者、あるいは団塊の世代などが、それぞれ覚悟を決

めて臨む必要があるという意見がありました。また、医者やケアマネージャー、保育士や商店街の方などの多業種を含めて地域で一体的につながって、それぞれ支えあう仕組み作りが必要という意見がありました。住まいについては、高齢者は住み慣れた地域での住み替えを希望するケースが多いが、日本全国でビジネス的にうまくいっていないという指摘がありました。

一方、川崎には、生田緑地、多摩川、臨海部をはじめとして、資源がたくさんあり、それが川崎らしさではないかという指摘もありました。また、川崎には健康産業、医療産業がたくさん集積しており、例えば味の素によるアミノ酸を使った健康食品の開発、富士通による患者データベースの構築、あるいは医療の革新を目指す臨海部のキングスカイフロントなど、イノベーションを起こす取組が非常に進んでおり、活用すべきという意見もありました。さらに、超高齢社会にあっては、街に外出する市民が何より大事で、外出先の魅力づくりが重要であるという意見も見られました。この2回の状況についてのご説明は以上でございます。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございます。いまご報告のあった有識者会議は、この市民検討会議と並行して進めていくため、いわば車の両輪です。市民が主人公ですから、市民検討会議の方が重要ですが、有識者からも専門に関する重要なお話をいただいております。従って、話し合ったことを互いにフィードバックし、連携しながら議論を深めていければいいと思います。前回の進め方を踏まえて、本日の進め方についても資料が用意されています。

(久万企画調整課長)

次に本日の進め方について説明致します。資料2をご覧ください。前回の全体会の意見シートの内容をまとめたものです。オモテ面は今後議論したい内容で、これから話し合っていく分野別に分類してございます。今回は一番上の社会福祉について、話し合ってくださいですが、やはり身近な医療、介護、高齢化といったキーワードに関心が集まっているようでございましたので、本日の論点も超高齢社会において生き生きと暮らし続けることができる地域作りに絞らせて頂きました。その後裏面をご覧くださいと思います。

下段の会議の進め方についての意見でございますが、議論の時間が足りない、委員間の討議をする場が無く残念、行政の説明が長い、論点を明確にして欲しい、などのご意見を頂いておりますので、本日は論点を明確にお示しするとともに、説明も議論の内容に関する必要最低限のものに絞るなど、事前に職員間で打ち合わせし、工夫致しました。初めてということで不慣れな点もございますが、何かございましたら、遠慮無くお申し付けいただき、改善していきますので、どうぞよろしく申し上げます。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それではグループディスカッションに入りますが、たくさんの資料が用意されて、腰が引けてしまう感じもあるかもしれません。しかし、我々の役割は、市民の生活実感を総合計画づくりに反映させる、あるいはわれわれ市民の率直な意見を反映させることですので、分厚い資料に負けないで、自由に議論していくことが大事です。今日のテーマですが、超高齢社会において生き生きと暮らし続けることができる地域の支え合い、と設定致しました。3つの柱に分けて、途中休憩をとりながら進めていきたいと思っております。まず一つは、支援が必要な高齢者、要介護高齢者への支援がどうあるべきか、誰もが安心して暮らせる仕組み作り

をどうするかです。二つ目は、元気な高齢者について、高齢者が力を十分に発揮でき、元気で暮らしやすい街にどのようにしていくのかについてです。高齢者についての連携や、力を引き出さずいただく場についてお話する必要があります。それから、高齢者も画一的でなく、多様な方がいらっしゃるの、意見を反映して柱を二つにまず分けてみました。三つ目は、これから高齢者になる方を中心に、まだ若く、仕事をしているが、将来高齢者になる方々を視野に入れた、超高齢社会を迎えて生き生きと暮らせる仕組みです。大きくこの3つの柱に分けて、議論を進めて頂ければ具体的なイメージを出しやすいと思います。この3つの柱について、3つのレベルに分けて、対応に関して討議するというテーマ設定です。ひとつは、家族や自分ができることは何かということです。例えば支援が必要な高齢者の見守りなどです。二つ目は、地域が力を合わせ実現できることです。例えば元気な高齢者の働く場を作り、アイデアや活力を受け止める地域の仕組みです。三つめは、個人でも地域でも難しく、行政が担うべきことです。例えば支援が必要な高齢者への、在宅サービス支援や専門的なヘルパー・ケアマネージャーの派遣などは、行政として遂行すべき課題です。このように、個人・家庭レベル、地域レベル、行政レベルに分けて今後の展開を討議していきます。それぞれのテーブルでファシリテーターさんがいらっしゃいますので、その方を中心に進めて頂ければというふうに思います。全体としては2時間ぐらいを用意しておりますので、適宜休憩を取りながら、各グループで進めて頂ければと思います。

また、先ほど誤解を招くような発言がありました。ディスカッションに参加する行政の職員は社会福祉関係部署の担当者ではなく、総合企画局で社会福祉の分野をご担当されている方です。以上の進め方について、何か皆さんの方からありますか。

グループディスカッションの後に、前回と同じように、各グループの代表者に発表してもらい、全体で共有し、今日話し合ったことを明確にする議論の時間も持ちます。それでは、三菱UFJリサーチ&コンサルティング（以下「MURC」）のスタッフの方から進め方をご説明頂きまして、その後意見交換に移ります。それでは西尾さんよろしくお願いたします。

グループディスカッション

資料説明

(MURC 西尾)

グループディスカッションの進め方について説明させていただきます。使います資料は資料5-1になりますので、お手元にご用意願います。事前にお送りしたものとほぼ同じ内容ですので、そちらでも構いません。進め方自体は資料4に記載してありますので、それに沿ってご説明させていただきます。

磯崎先生からご説明いただきましたが、大きいテーマに福祉や医療、社会福祉があります。それをさらに三つに分け、これから全体で約120分、一つ当たり約40分かけて、細かいテーマに分けて議論を進めたいと思います。最初のテーマは主に支援が必要な方を中心に考えます。二番目のテーマは元気な高齢者について考えます。三番目は、10年20年先の川崎市を考えていくということです。これから高齢者になっていかれる方のことも含めてこのテーマを考えていきたいです。

各テーブルに二つ模造紙がございますが、今回はファシリテータの他に書記がついておりまし

て、書記のメンバーが皆さんのご意見を付箋に書いたり、紙に直接書いたりしてまとめていきたいと思います。

最初に行政の担当者よりテーマについての簡単な説明がございますので、それをお聞きいただきながら、今後どうすべきかについてのお考えやご意見をまとめていただきたいと思います。メモをしていただいても結構ですし、付箋にお書きいただいても結構です。付箋の場合には、そのまま後ほどの意見交換の際に使わせていただきたいと思います。

こうしてお考えをまとめていただいた後にグループ討議に入ります。グループ討議ではファシリテータの司会進行で自由にディスカッションをしていただきますので、さらに新しい意見がどんどん出てくると思います。それを適宜付箋に書いていただくこともありますし、口頭のご意見については書記がメモを取り、ボードに写すということで進めたいと思います。

今後どうしていくかということについて自由にご意見をいただきたいのですが、先ほど磯崎先生からもご説明がありましたように、基点として3つに分けて整理していききたいと思います。自助と言われますが、まずは家族や自分たちができることは何なのか、そして互助や共助と言われますが、地域が力を合わせて実現できること、さらには行政が担うべきこと、この大きな3つの視点に分けて今後のあり方を追求していききたいと思います。

3つのテーマをそれぞれ約40分ずつかけてやりました後は、各グループでどのような意見交換があったかをお互いに発表し、全体で共有していくというプロセスでいききたいと思います。今回は是非委員の皆さんに発表をお願いしたいと思いますので、後でテーブルに分かれた時にどの方に発表していただくかということも決めていただき、議論を進めていききたいと思います。私から説明は以上でございます。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございます。それでは4時くらいになりましたらお声をかけますので、それまで各グループで進めていただければと思います。2時間は結構長いので、集中するためにも適宜休憩をとりながらお願いします。その後、全体で休憩をとった後、全体会を4時15分くらいから始め、30分くらいで進められればと思います。よろしいでしょうか。それではグループごとをお願いします。

【グループディスカッション (約120分)】

全体会

(磯崎コーディネーター)

みなさん、長時間大変お疲れさまでございました。スタンバイがそろそろ整ったようですので、今回は各メンバーの方に報告していただくということで、責任が重く大変かとは思いますが、他のメンバーの方にも補足をしていただきながら進めたいと思います。3つの大きなテーマがございますが、それらをまとめて各グループ5分でお願いします。その後、言い残したこと、他のグループに対する質問等への時間もとりたいと思います。それぞれグループごとに検討してきたことをこの30分で共有化しようということでもあります。それでは早速ですが、第1グループの方、よろしく願いいたします。

発表

(第1グループ)

「誰もが安心して暮らせるしくみづくり」

(長谷川委員)

よろしくお願いします。「誰もが安心して暮らせるしくみづくり」について検討しました。「家族や自分ができること」、「地域が力を合わせて実現できること」、「行政が担うべきこと」、この3つの中でも「地域が力を合わせて実現できること」が一番大切ではないかという意見がありました。実際に困っている人の情報を知ることが大事で、ただこれは個人情報保護法がネックになり大変ではあるのですが、地域のコーディネートを活かして、またコーディネートできる方を育成しながらやっていく方向にしたらどうかという意見が出ました。皆が気軽に集まれるコミュニティの場をつくったらどうかという意見もありました。居住する地域に近い商店街の空き店舗、公園、公民館、図書館をうまく活用したら良い、またこのコミュニティには多世代の方が気軽に入れるよう何か工夫が必要という意見が多数出ました。

(山下博子委員)

「家族や自分ができること」としては、自分の住んでいる地域を知る、まわりにどんな人たちがいるのかを知ることが大事。そのためにもあいさつ、声掛けを積極的にすることが必要という意見がありました。家族という意味では、これは当然のことだとは思いますが、家族間で連絡を取り合い、何か起こったときの対策を事前につくっておくことも必要という意見もありました。

行政との関係としては、地域に見守りなどボランティア活動をやりたいという方は結構多いと思うので、その拠点となるような場所をつくることに関わってもらいたいという意見。行政事務の一部を地域に移管し、地域で担っていくということも重要という意見も出ました。

他に、ボランティア情報を共有できる仕組み、ボランティアを募るための仕組みづくりが必要。家族、地域、行政の連携が重要。コスト削減のための情報システムが必要で、そこで効率化するということも重要だという意見がありました。

「高齢者が力を発揮し、元気で暮らしやすいまちづくり」

(加藤浩照委員)

私は今月で67歳になり、前期高齢者で、元気な高齢者の中の一人です。

「家族」については、家の者は皆外に出て活性化していくことが重要ではないかと思います。交流化を図らないで自分だけでやろうとすると、できることもやりにくくなるということが一つあります。

「地域」については、コーディネーターが必要だという意見が大分ありました。計画をいろいろ立てても、実際に動いてやる人がいないとなかなか進まないと思います。情報も伝わりません。情報の一元化し、この3つをつなげてコーディネートする人が必要で、そのコーディネーターを介して高齢者はいろいろなことに参画できると思います。高齢者が元気であるためには、働くことが大事なので、現在シルバー人材センターがありますが、これをもっと活性化して、具体的に広く地域ごとにつくったらどうかという意見。またその中にいろいろなスキルも持った人がいま

すので、そういった人で便利屋集団をつくるのも良いという意見。

「行政」は、いろいろな動機づけをやる必要があると思います。ポイントの利用、ボランティアの新聞など、単なる市政だよりではなくて、ボランティアの情報やタウンリストを活用して広く流布していく、裾野を広げていくことも行政が担うべきことではないかと思います。

(片山委員)

結局のところ、高齢者は、立てて頼ってあげれば力を発揮していただけるのです。それには褒めてあげることが大切です。地域の皆が頼ることで、おじいちゃん、おばあちゃんの持つスキルを発揮していただき、その後には子どもたちと交流しながら、子どもたちにいろいろなことを教えていっていただくことが非常に大切ではないかと思いました。

「超高齢社会を迎えて、いきいきと暮らせるしくみづくり」

(外山委員)

超高齢社会を迎え、これから高齢化を迎える人たちが生き生きと暮らせるしくみづくりということで、生き生きと暮らせるとは何かということを考え検討してみました。希望を持ち、心から笑顔であること、そういったことを根本から改善していこうということで、「家族や自分ができること」として、一つは運動です。自らが体を動かせる人と動かせない人の差があると思いますので、家族など身近にいる人が後押しをしていくことが大事という意見。また、食生活の見直しも必要で、家族だからこそ厳しい目で、魚中心、野菜中心の食事などに改善していくということでまとまりました。

「地域が力を合わせて実現できること」については、検診の促進というところで結びついてくるのですが、家族と共に健康組合から、また行政からなど検診のお知らせをし、自分が健康でないことを認めないような頑固なおじいちゃん、おばあちゃんがいらっしゃると思いますので、そういった方たちをいかに検診へ足を運ばせられるか、健康を維持させられるかが大切。促進ということで、健康第一ということでまとまりました。また、子どもですとか、川崎市は大学の多いところでもありますので、そういった若い人たちとの交流を深めていくことで、自然に笑顔が生まれたり、汗をかいたりすることで若返りにつながるのではないかという意見もありました。

(青柳委員)

「行政が担うべきこと」について、行政が高齢者の働きを促して、働きやすい環境にしていくことが必要です。現状ですと、ケースワーカー、老人ホームも有効な活用ができておらず、広域的な調整が必要かと思います。端的に言いますと、交流の促進、介護の施設の充実です。高齢者は元気がないので、元気を出していただき、支援していきたいと思います。以上です。

(磯崎コーディネーター)

それでは第2グループの方、よろしく願いいたします。

(第2グループ)

「誰もが安心して暮らせるしくみづくり」

(川島委員)

そもそも第2グループでは、本日のテーマである社会福祉は、本当に難しいテーマだということとスタートしました。ただ、この社会福祉が充実し、ご高齢者に恵まれた環境のまちになり、若者がどんどん入ってくるようなまちになれば、総合的な結びつきの中で問題が解決していくのではないかという視点で議論をしました。

最初に「誰もが安心して暮らせるしくみづくり」ということですが、まず「家族や自分ができること」は、支える側のサポートの充実が重要です。自助という考え方になりますが、必要な情報を知る意識を持つということ、これを議論しました。と言いますのは、介護を必要としている人がいるということは、当然介護をしている方もいるということで、要介護の方と介護する方、その必要な情報を知る意識を持たせることが、40～50代の方にとっては非常に大切なことだという認識です。「地域が力を合わせて実現できること」についてですが、地域で支え合うことは当たり前前という感覚は、川崎では既にできているのではないかと思います。事前に配られた福祉のしおりの中身には非常に素晴らしいものがあります。ただ、川崎市民がこれをどれだけ知っているのかということに少し問題があるのではないかと思います。情報共有のしくみということで言いますと、さらに自治会、ボランティアの組合などでの情報の共有ができれば、こういったものの情報開示がもっとできるのではないかと思います。それから、介護が必要になる前からの人間関係づくりが大切で、介護の予備軍である今の40～50代の方々が、今から川崎市には素晴らしい施設、仕組みがあるということを知っていれば、より安心して暮らせるというファクターになるのではないかと思います。「行政が担うべきこと」で言えば、今も申しましたが、素晴らしいものがありながら、それを140万の川崎市民の全員が知っているのかということが問題で、もう少し強い発信力があってもよいのではないかと思います。日常的に目の触れるところで、世代を超えた情報の伝達ができればよいと思いました。例えば、電車の中の広告があります。東横線の中にどこかの地方都市の広告を見たりすることがあったのですが、そういうように逆手を取るのも一つの手ではないかと思います。それから、介護を担う専門の人材が全体的にはまだ不足していて、その人材を育成するにはどうしたらよいのかについても話し合いました。以上です。

「高齢者が力を発揮し、元気で暮らしやすいまちづくり」

(辻委員)

まず、高齢者の問題を高齢者だけで解決することは無理なので、若い世代と一緒に考え解決することが必要だという意見になりました。元気な高齢者にはまちに出ただき、出番をつくるということを考えました。ただ、高齢者同士の中で出番をつくるのではなく、子ども、中高生、大学生、働いている方たちと、世代を超えた関係の中に高齢者にも入っていただくことができればよいと思い、その方法が出番をつくるということです。高齢者の地域資源として持っているいろいろな能力を引き出せるよう、リスト化し、登録制度をつくる。地域のイベントに参加していただき、例えば就職活動に悩んでいる学生に自らの体験を話していただいたりするだけで、斜めの関係ができるのではないかと思います。そういったきっかけの場となる高齢者のための講座、学びの関係を築くための場所を提供していただく、ということを行政にお願いできればと思います。また、民間にも高齢者の働く場づくりに協力していただくことができないかと思います。高齢者自身が外に出て行こうという気持ちにならないと何も始まらないので、その所に関しても

自助として何か取り組むことが必要だと話し合いました。

「超高齢社会を迎えて、生き生きと暮らせるしくみづくり」

(新富委員)

高齢者になる次の世代の方たちの希望のあるしくみを作っていく必要があると思います。地域に出ていくきっかけを作るといことで、自分たちができると、地域ができたことのちょうど中間になるかと思っています。地元の商店で買い物ができるようにカードを作成し、ポイント制にし、地域にお金が落ちるような場作りも一つかと思っています。人と会話することが多くなりますのでその辺もポイントになります。高齢者にメリットのある社会はこれからの希望になると思います。もう一つは多世代との交流です。きっかけづくりといことで、気楽に立ち寄れる場、集めるのではなく、集まるような魅力的な場づくりが必要です。私の好きな言葉でギャザリングというものがあります。ギャザリングは、自然に集まってくるような場づくりです。これは非常に大切なことで、無理に集める必要はないのです。

行政にお願いすることですが、川崎にあるたくさんのイベントごとをもう少し強く発信し、一緒にきっかけづくりをすれば、元気なまちになっていくのではないかと思います。小中学校でも老人ホームの情報など、資料を渡したらどうかと思います。子どもを通しておじいちゃん、おばあちゃんにこういったシステムがあるというような情報を伝えることができると思います。これも行政に取り組んでいただければ、良いきっかけづくりになると思います。こうした教育の場を通じた多世代のコミュニケーションづくりもきっかけづくりの一つです。

民間にもお願いする必要があるかと思いますが、一つは高齢者でも働ける場、もう一つは心身の健康です。また、健康の認定が必要だと思っています。健康の段階で自分が今どこにあるのかというのはとても面白いテーマだと思います。川崎はいろいろ素晴らしい仕組みがありますので、他市との違いを持ってもう少しオンリーワンをアピールすることで若い世代が集まってくると思います。最後に一つ、河原町団地が非常に高齢化しています。河原町団地のお年寄りを1階と2階に集め、上の階に若い人たちを集めれば、川崎の駅にも近い団地ですので、どんどん活性化できるのではないかと思います。皆で知恵を出し合えば素晴らしいまちになると思います。

質疑

(磯崎コーディネーター)

それぞれの力が入ったご報告をありがとうございました。他のグループへの質問やコメントはありますか。共通した部分もありましたし、視点の違う部分もありました。質問、確認はよろしいですか。

投票

(磯崎コーディネーター)

それでは、前回もグループでやりましたシール投票を行いたいと思います。一人3つです。自分のグループの発表でも結構ですし、もう一つのグループの発表でもどちらでも結構ですので、これは気に入った、これは大事だというようなものにシールを貼っていただけますでしょうか。

なるべくシールはまとまって貼っていただくと、たくさん支持されているなど分かりやすいので、そのようにお願いします。

講評

(磯崎コーディネーター)

それでは3つのテーマについて、私のコメントも含めながら、皆さんと一緒にまとめに入りたいと思います。その後、皆さんから何か補足があればお願いしたいと思います。

最初に「誰もが安心して暮らせるしくみづくり」ということで、支援の必要な高齢者についてどういった対応をとるかということでありました。シールの集まったところを見ますと、必要な情報を知る、知るという意識を持つこと、その母体となる日頃からの人間関係づくり、この辺にシールが多いように思います。第1グループの報告の中では、第2グループでもあったように思いますが、気楽に集まれる魅力ある場所づくりが票を得ているようです。

第2のテーマである元気な高齢者、これをどう地域でつなげるかに関しては、多かったのは人材センターで、便利屋集団というのは面白かったですね。どこかで活用するという話があったかと思いますが、それと共通する、より具体的な話をに入れていただきました。そういった場を作るとなると、コーディネーターが必要というところにもシールが貼ってあります。これも場づくりにつながる話だと思いますが、出番を作る、これが一番得票が高いようです。非常に良いですね。それから斜めの環境を作る、多世代交流が皆さんの評価を得たところです。

第3のテーマはより切実と言いますか、面白い提案があったためかシールが一番多いようで、民間が主体となった取組をどう考えるか、そのメリット作りと見える化が大事という話でした。それから健康の問題。検診を受けられる仕組み、メリット作りはここにもつながると思います。大変多岐にわたる、しかし非常に具体的な議論ができたのではないかと思います。2時間聞かせていただいて、非常に中身があるなど率直に思いました。感想をキーワードでまとめるのが私の仕事で、まとめきれず、もれてしまうものの中にも重要なものがあるのですが、多少無理をして整理をいたしますと、まず第1のテーマについては、情報と人間関係が重要だと思いました。個人情報保護法が壁になり情報を取るのが難しく、災害時も要支援の高齢者がどこにいるのか分からないというような問題があったかと思いますが、それでも情報の共有はこれからも大事なことだだと思います。また、情報が共有されない原因として、日頃からの人間関係がない、と関係性という話が出ていました。関係性があれば、自然に要介護者がいるというような情報も知ってもらえるということです。そういう意味では、情報と関係性がキーワードになると思いました。コーディネート、気軽に集まれる場所というのも、関係性を日頃から作っておくという課題につながると思います。

2つ目は、出番づくりと場づくりというのが大きなテーマだったと思います。元気な高齢者の出番を作る。そのための場づくり、きっかけづくりが大切で、行政がきっかけさえ作ってくれば、後は住民たちがやっていくということだったかと思います。公園体操の例を出されて、やり始める時に勝手にやるのではなく、行政からの何かしらのお墨付きがあれば、それをきっかけにしてどんどん広がっていくので、主体が市民で、きっかけは行政が作るというのは大事だということご指摘だったと思います。

3つ目のテーマについては、こちらも多岐にわたる議論が出ていたと思いますが、メリットと見える化です。高齢者が働いた所得の市民税を安くしたらよいのではないかという話もあったかと思えます。それは行政が作るメリットでした。ここでは、民間が作るメリットもあり、インセンティブをわかせるために見える化をするということでした。検診ですとか、数値を出すという話もあったかと思えますが、そういったテーマに膨らんでいくのかなと思いました。

今回のこの視点を第2部会、全体会につなげていき、良いかたちで我々の検討が進めばよいと思いました。皆さんの方から何か補足、進め方等ありますでしょうか。今日は2時間、それぞれのテーマについて十分議論できたのではないかと思います。皆さんの生活実感がとても大事だと思いました。皆さんは具体例をお持ちですから、こういった場合はこうだよと紹介されますと、私などは資料を見ながら考えていますので、説得力が違うと思いました。それでは、次回は子育てと教育がテーマです。選択していただいた委員の皆さま、是非引き続きご参加いただき、また全体会でも大いに議論していきたいと思えます。本日のディスカッションは以上とさせていただきます。大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

閉会

(司会 唐仁原都市経営部長)

磯崎先生、委員の皆さま、本日は土曜日、しかもお足もとの悪い中お集まりいただき、活発なご議論を誠にありがとうございました。我々が総合計画を作る上で、先ほどの説明にもありましたように、これだけのスピードで高齢化が進んでいくと、どういったことが課題になるのか、少子高齢化という大きな課題の中で、まずは高齢化ではないかということで最初のテーマとさせていただきます。次回はその少子ということで、子育て、教育を検討していきたいと思えます。

2点ほど事務連絡がございます。

1つ目ですが、お手元にお配りしている「意見シート」に必要事項をご記入いただき、お帰りの際に受付にいる職員にお渡しください。

2点目ですが、繰り返しになりますが、次回は、「子育て・教育部会」で、12月21日(日)に開催いたします。会場は、今回とは違い、高津区役所第1、第2会議室になります。対象の方には、改めて御案内いたしますので引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

それでは5時ちょっと前ですが、以上をもちまして、「総合計画市民検討会議 第1部会」を終了させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

以 上